



# 児童生徒の学びを止めないために

# 「対話的な学び」の視点からの授業改善

「学校の新しい生活様式」を踏まえて児童生徒や教職員の健康維持に配慮しつつ、児童生徒の学びを止めない工夫が求められています。

新学習指導要領で示されている「対話的な学び」について再確認し、話し合い活動が行いにくい状況下でも、以下の工夫例を参考にしながら、授業改善を進めましょう。

## 『対話的な学び』とは

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えることを通じ、自己の考えを広げ深める。  
 〈『小学校学習指導要領解説総則編』(H29)より〉

### 「子供同士の協働」の工夫例

#### 【ICT機器等を活用した工夫例】

- 考えを交流する際に、お互いに距離をとるため、**教材提示装置**に作品等を写して見合う。
- スピーチを行う際には、マスクをとり、換気の良い別室で**録画**した映像をお互いで見合う。
- お互いの考えを参考にする際に、**タブレット等**でデータのやり取りを行う。 など



#### 【ノートや付箋紙等を活用した工夫例】

- 考えを交流する際に、自分の考えを記述した**ノートを見合う**ようにする。
- 助言や修正案などを伝える際に、**ワークシートに記入し合う**ようにする。
- 考えの良かった箇所や疑問点を伝える際に、**付箋紙を活用**する。 など

### その他の視点からの工夫例

#### 【地域の人との対話を行う際の工夫例】

- ゲストティーチャーに、**ビデオ映像**等でアドバイスをもらう。
- 地域の人への質問やアンケートを郵送し、回答を**手紙**でもらう。 など



#### 【先哲の考え方を手掛かりにする工夫例】

- インターネット**等で専門家の意見等を収集し、考えをまとめる参考にする。
- 新聞や雑誌の記事**等を引用して、主張を支える根拠資料とする。 など

ほかにも、**ハンドサイン**や**ネームカード**等を活用することで、友達の立場や意思が分かりやすくなり、自分の考えと比較することができますね。



©岡山県「うらっち」



- ペアやグループでの話し合い活動のみが「対話的な学び」ではありません。
- 「対話的な学び」は目的ではなく**方法（授業改善の視点）**です。
- 児童生徒の**考えを広げ深める**ための工夫を行いましょう。

## 学力向上担当者の先生方へ

- 現在、話し合い活動が行いにくい状況ですが、児童生徒に、深い知識・理解や思考力・判断力・表現力等を身に付けさせるために、「対話的な学び」の視点を意識した授業改善をお願いします。
- 臨時休校の遅れを取り戻そうと、教師主導型、講義型の授業一辺倒になる傾向があります。児童生徒たちの意見や疑問、気づきや学びを大切に「児童生徒が主役となる」授業となるよう創意工夫をお願いします。

